

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

①言葉の特徴や使い方に関する事項	概ね良好な結果であった
②情報の扱い方に関する事項	概ね良好な結果であった
③我が国の言語文化に関する事項	概ね良好な結果であった
④話すこと・聞くこと	概ね良好な結果であった
③書くこと	良好な結果であった
④読むこと	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- 最も正答率の高かった設問1ー一 文章の内容を読み取る問題。
- 無解答率の高かった設問1ー四、4ー三 条件に応じた文を作る問題。

分析

全体的に無解答率が全国に比べて低く、最後まで取り組む生徒が多いことがわかる。
選択式、短答式の問題は概ね良好な結果であったが、記述式の問題については無解答率が高かった。「インタビューの最後の言葉」や「文章を読んで評価する」といった、他の文章を読み、それに対して自分の考えを書くといった「思考・判断・表現」を問う問題に対して、取り組む前から苦手意識が先行している生徒が多く見られた。
今後の授業において、文章を書く機会を増やし、書くことに対する苦手意識をなくしていく必要がある。自分の考えを発表する場面も増やしていきたい。

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と式 | 概ね良好な結果であった |
| ②図形 | 良好な結果であった |
| ③関数 | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- 最も正答率が高かった設問 7 (1) 四分位範囲を求める問題
- 無解答率の高かった設問 5 累積度数の意味を問う問題

分析

1 傾向

正答率を大阪府や全国平均と比較すると概ね高かった。図形に関する領域では全国平均を大きく上回っていた。

2 成果

難易度が比較的高い設問 (9 の (2)) において、正答率が高く、無解答率が低いことから、全ての問題に対して意欲的に取り組むことが出来ていると考えられる。

3 課題

自然数や累積度数などの意味を問う設問で、全国平均正答率が大きく下回る部分があった。具体例を用いた説明を積極的に取り入れるなどしながら、正しい理解を促していく必要がある。

4 授業での重点的な取り組み

データの活用と図形の領域に関しては全国平均と比較すると、比較的良好な結果であり、生徒たちの強みが見てとれる一方、無解答率も全国平均と比較して少し高めの数値であることから、学力の差も大きいと考えられるので、タブレットなどを活用し、一人ひとりにあった個別最適な学びを追求していく。

英語

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①聞くこと | 良好な結果であった |
| ②読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ③書くこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

○最も正答率が高かった設問 1 (3) 情報を正確に聞き取る問題

○無解答率が最も高かった設問 7 (2) 日常的な話題に関して短い文章の概要をとらえる問題

分析

1 傾向

大阪府や全国平均と比較すると概ね正答率が高かったが、資料を読み取る問題や自由英作文など、応用的な問題の正答率が低く、無解答率が高かった。

「話すこと」調査に関しては社会的な話題に関して聞いたことについて考えとその理由を話す設問において、全国平均と比較すると正答率が高かったが、全体的に無解答率が高かった。

2 成果

知識・技能における正答率が高く、基礎は概ね定着しているように考えられる。

3 課題

英作文や資料の読み取りなどの応用問題への苦手意識が高いと考えられる。

4 今後について

定着させた知識をどのように生かしていくかを考え、情報を整理し要約したり、自分の考えを表現する英作文やスピーチなどアウトプットを意識した授業づくりをしたい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

国語・数学ともに全国平均より正答率が高く、過去数年で見ても上昇傾向が続いている。

無解答率については、設問によって多少の違いはあるものの、おおむね全国平均より低い傾向となっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層の割合は直近4年間で最も高かった。また、学力低位層も同じく直近4年間で減少傾向にある。エンパワー層については、増加、減少を年度ごとに繰り返している。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

【授業づくりについて】

- ・ 生徒の現状に見合った授業づくりができるよう教科内・学年・学校での意思疎通を図り、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践を意識して取り組んでいる。
- ・ 支援の必要な生徒を含め、同じ教室で学ぶ生徒一人ひとりの学力保障を意識した授業のユニバーサルデザイン化を進めている。
- ・ 今年度も教員間での授業交流週間を設定し、相互の研鑽に努めるとともに、教科内での情報共有・相談・学習課題等の検討を行っている。

【言語活動の充実】

- ・ 授業をとおして生徒が「学びあう」場面を作り、考えたことを言葉で表すことを意識して授業を展開している。
- ・ それぞれの教科の中で、新しく学習することへの学びを深めるためにグループ等で意見交流する場面を作ったり、テーマについての自分の考えをまとめ、発表する機会を持ったりしている。
- ・ 学習内容の定着のために演習を行う際、一人で考えて分からないことをグループの中で教え合いながらできるよう積極的にグループ活動を取り入れ、その中で生徒同士がお互いに言葉で伝え合って学びを充実させられるよう取り組んでいる。

【学習支援について】

- ・ 長期休業中に学年で学習会を実施したり、課題を最後まで仕上げて確実に提出できるようサポートの必要な生徒を中心に働きかけを続けたりすることをおして、すべての生徒への確実な学力保障をめざしている。
- ・ 放課後に図書室を学習室として開放し、一人では課題に取り組みにくい生徒、家庭で学習環境が整いにくい生徒への学びの場の提供を行っている。